

(様式 1)

「未来の担い手育成プログラム研究校」実績報告書(3年次)

1 学校名等

学 校 名	向日市立寺戸中学校				校長名	實川 明彦
研究教科・領域等	総合的な学習の時間及び各教科					
研 究 主 題	「仲間とつながり、目標に向けて支え合いながら取り組める生徒集団の育成」					
研究の目的	今後、社会を生き抜いていくためには認知能力と非認知能力の双方を育む必要がある。本研究を通して、教職員が非認知能力について学び、その重要性について共通理解を図る。そして認知能力に加え、非認知能力を意識した指導や支援を行うことで研究主題にある生徒集団の育成に迫ることを目的とする。					
学 年	1 年	2 年	3 年	特別支援	合 計	教職員数 ※校長・教頭を含む
学 級 数	5	5	5	2	1 7	3 3
児 童 生 徒 数	1 6 9	1 7 1	1 7 8	8	5 2 6	

2 研究校の概要

(1) 生徒の実態

- 強み**
- ・まじめで何事にも真剣に取り組む。・部活動に熱心に取り組んでいる。
 - ・教師との信頼関係が築かれている。・授業規律が保たれている。暴力的事象は少ない。
 - ・あいさつができ、学校全体の雰囲気は明るい。
- 弱み**
- ・指示されたことはできるが、自分で考えて行動する力に課題がある。
 - ・人間関係のトラブルを自力で解決していくようなコミュニケーション力に課題がある。
 - ・計画的な学習が十分でなく、学習塾等に頼った学習スタイルの生徒が多い。

(2) 学力状況

非認知領域に関するデータ	京都府学力診断テスト		全国学力・学習状況調査	
3 年 生	(1 年 時)		(3 年 時)	
	寺戸中	京都府	寺戸中	京都府
・計画を立てて学習	71%	67%	65%	62%
・友人の話を最後まで聞く	96%	94%	96%	95%
・最後までやり遂げる	98%	96%	88%	83%
・夢、目標をもっている	88%	82%	75%	66%
・失敗を恐れなくて挑戦	70%	70%	66%	63%
・自分に良いところがある	82%	75%	96%	75%

認知領域の客観的なデータを見ると、国語において、「話すこと・聞くこと」では成果が見られた。特にプレゼンテーションや話すことについての知識や技能が一定、定着しており、それは普段の授業や、特別活動など日頃からグループ活動や、話し合い活動を重視している成果だと考えられる。しかし、「聞く」力に課題があることがわかった。相手の意見をしっかりと聞いてから、自分の意見を言うなどの話し合いのルール設定などの工夫が必要であった。全体的に、学力テストの点数に優位な向上は見られなかった。今後、非認知能力の向上が、認知能力の向上に効果的につながるためには、時期・方法などを検証していく必要がある。また、非認知領域では、肯定的に答える生徒の割合が府の平均と比べて高かった。その点から、非認知能力向上の取組の成果は見られた。

プロジェクトチーム
(校長、教頭、教務主任、研究主任、各チーム代表)

①授業改善チーム ②総学時チーム ③特別活動チーム

研究全体

月日	内容	詳細
4月7日	校内研修	昨年度の取組と今年度の研究イメージ
6月16日	校内研修	中山先生による授業参観(指導助言)
8月25日	校内研修	ブラッシュアップシートの活用方法等
9月～10月	取組	体育祭の取組
11月16日	教科部会	研究テーマを意識した授業改善と指導案作り
11月17日	校内研修	中山先生による助言
通年	研究通信	研究の進捗状況の視覚化

研究部通信

2015年4月号
Vol. 1

読者のみなさんへのご挨拶

当大学の学部では「未来の新しい学際連携プログラム研究」の取組を続けています。今年度はその一環を遂行いたします。

研究部通信・・・

仲間とつながり、
目標に向けて支え合いながら
取り組める生徒集団の育成

初めての方は、**何をするんだ！**？と思われるかもしれません。

そして、4月は忙しい（？）どころか面白いことなはずです。

大丈夫です・・・研究部としては、何もしないでおくように、新しいことをおぼろげながらやり取りがありながら、コミュニケーションが、そして**着実に**進んでいく予定です。そして、研究部通信の発行によって専門学校の生徒、教員と**根付く**ものにしていきたいと思います。

研究部通信・・・

認知能力と非認知能力！

読者のみなさん・・・

京都大学 iPS 細胞研究所！

面白くてたまらぬので・・・

岡山大学中山芳一先生！

実は、4月7日（水）19時に先生に会っていただき、**認知能力とはなんなのか**というところから話していただきました。知らない先生ももう一度話を聞いていただければいいかなと思います。

2022年
7月6日
第 8 回

研究部通信

アンケート結果

→自分の承認欲求?→

アンケートの結果お送りありがとうございます。

今回のアンケート結果をくまのこけしに反映させてあります。

1. 「自分と向き合う力」 (自制心・忍耐力・決断力・心算)
2. 「自分と表現の力」 (想像・言葉・実行力・表現力)
3. 「他者とつながる力」 (コミュニケーション力・共感力・応答力・協調性)

1. (よくできていない) → 今と比べてできていない。チェックしてもしない、その後の合計が 3 点以下になっている。上の順番が承認欲求が低いといえるということになります。

それでは承認欲求 (低設計) (1以下)の傾向、お探してみよう！

1. 「自分と向き合う力」 (自制心・忍耐力・決断力・心算)

1 点目	4 人 (4.7%)	2 点目	7 人 (7.6%)	2 年目	7 人 (4.3%)
------	------------	------	------------	------	------------

2. 「自分と表現の力」 (想像・言葉・実行力・表現力)

1 点目	1 人 (1.9%)	2 点目	3 人 (4.6%)	2 年目	0 人 (0%)
------	------------	------	------------	------	----------

3. 「他者とつながる力」 (コミュニケーション力・共感力・応答力・協調性)

1 点目	6 人 (7.7%)	2 点目	12 人 (17.6%)	2 年目	14 人 (7.7%)
------	------------	------	--------------	------	-------------

さあ、この結果を見てどう思われるでしょうか。

そう思う? → 1. 自分がよくやることと共通していることではないですか? →

→ 2. コミュニケーション・表現性・社交性・協調性? 何と年々でも伸びている? →

→ 3. 何とつながる? 想像・言葉・実行力? 伸びている傾向になります。おぼえておいて・・・。

何年とつながる? → 3. 想像・言葉・実行力? 伸びている傾向になります。おぼえておいて・・・。

おぼえておいて・・・。

おぼえておいて・・・。

[illegible]

課題解決型学習に関する取組内容

内容等	月	日	曜	時 限	教科等	留意点等
探究学習とは	4	7	水	5	総合	探究学習の概要説明、「探究」とは
協同スキルについて	6	3	木	6	総合	NASA ゲームを活用
プレゼンスキルについて	6	10	木	5・6	総合	NHK ティチャーズライブラリーの活用
iPS 細胞について	6	17	木	5・6	総合	iPS 細胞について
iPS 細胞について	7	1	木	5・6	総合	京都大学 iPS 細胞研究所によるリモート講義
iPS 細胞について	7	8	木	5・6	総合	京都大学 iPS 細胞研究所によるリモート講義（課題提起）
課題設定	7	15	木	5	総合	iPS 細胞を用いた治療における倫理的課題の課題設定
レポート作成	夏季休業中				理科	iPS 細胞を用いた治療における倫理的課題とその考察
チーム決定と計画	9	16	木	5・6	総合	夏のレポートを活用して学級毎でチームを組む
調査と発表に向けて	10	7	木	5・6	総合	探求する課題の協議・検討、設定
調査と発表に向けて	10	21	木	5・6	総合	発表資料の作成
発表に向けて	10	28	木	5・6	総合	発表資料の作成
発表に向けて	11	4	木	5・6	総合	発表資料の作成 発表準備
発表リハ	11	11	木	5・6	総合	学級内発表交流会
発表	11	17	水	1	総合	3 年生に向けて発表
発表	11	19	金	6	総合	3 年生に向けて発表
発表の振り返り	11	25	木	6	総合	探究学習及び発表の総括
チーム再編成、計画、作成	11 月 25 日～12 月 17 日			昼休み・放課後		コンテストに向けての準備、スライド作成、発表練習
コンテスト発表動画作成	12 月 20 日～12 月 22 日			放課後		コンテスト発表動画作成



京都大学 iPS 細胞研究所職員によるリモート授業の様子



3 年生に向けて発表している様子



発表資料の一部

4 今年度の研究の成果と検証

- ・コロナ禍においても学校全体で非認知能力の育成を意識した授業改善の取組を進めることができた。継続的な研究通信の発行及び校内研修を実施することで、年間を通して教職員が研究主題・副題を意識した授業改善の取組を行うことができた。
- ・第2学年においてリモートによる京都大学 iPS 細胞研究所と連携した取組を行い、正解のない問いを通して非認知能力を育てる活動を行った。また、昨年度活動した第3学年に向けて成果を発表する機会を設けることで取組に対する生徒の意欲向上が見られた。
- ・第3学年で、アンケート（中山芳一（2020）「こんな時だから伸ばしたいあなた自身の非認知能力！」ーこの後の未来のためにー）を実施し、特に「自分に良いところがある」の項目で肯定的な回答が見られた。
- ・認知能力・非認知能力の基礎にあるものを「自己肯定感」という考えで研究を進めていることを考えると、生徒の自己肯定感を高めることができた。

5 今年度の課題

- ・令和3年度の各種学力テストを活用した客観的な学力分析をしてみると、読み取る力や、聞き取る力が低いことがわかった。
- ・自己肯定感やコミュニケーション力・共感性・社交性・協調性等がどの学年でも伸びていたが、「自分と向き合う力」（自制心・忍耐力・折れない心等）、「自分を高める力」（自信・意欲・向上心・楽観性等）が低かった。次年度は、コミュニケーション力等を意識した取組により、自分と向き合う力、自分を高める力につなげていきたい。

6 事業終了後の研究構想

- ・事業終了後も岡山大学中山准教授と連携し、認知能力と非認知能力の両方を意識した授業改善及び学級づくりの研究を行う。
- ・1年生：「自己肯定感」、2年生：「非認知能力」を育てる活動の実施、3年生：本年度の研究を通してつけた力を通して、高校進学にとどまらないキャリア意識を伸ばす活動を実施する。
- ・自己肯定感、非認知能力についての数値によるデータ分析と考察をもとに、生徒の特性に応じた取組を推進する。

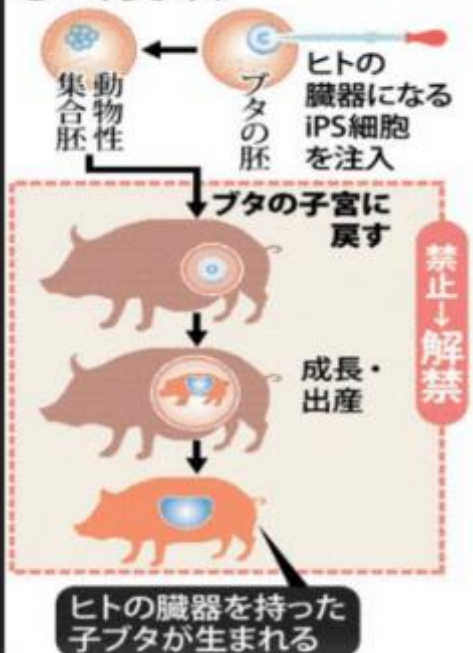
まとめ

- 人を使って実験をすることは命がなくなるということなので、そんなに簡単に人体実験をする事がよくないと言うのは思ったけど人体実験について詳しく調べてみたらしっかりと許可が取れてたら良いしiPS細胞の研究をてつだったら救える命が増えると思うから場合によっては賛成もしくは反対の意見

動物性集合胚

動物の胚に人間の細胞（iPS細胞）を注入したもの。

動物性集合胚でヒトの臓器をつくるしくみ



取組の振り返り記入例（１）

R3 2年 総合的な学習の時間 令和3年11月25日

「探究学習」総括

2年〔 〕組〔 〕番氏名〔 〕

◇「探究学習」(IPS細胞に関する倫理的課題の研究)について振り返ろう。

調べ学習編

1. 自分で設定した課題において、調べ学習【書籍やインターネット】を通して学んだこと、難しかったことは？

成長した点
疑問に思ったことはすぐに調べて、解決しようとしたこと。

難しかった点
パワーポイントを使ってどうすれば簡単にわかりやすく伝えられるかということ。

2. 調べ学習に際し、書籍やインターネット以外で工夫したものはどのようなことか？
また、どのように工夫したか？

アンケートを取ったこと。(3年生に)
3年生は去年探究学習をしているので、学習し終えた人の意見はどのようなものが取り入れようと思い、アンケートを取った。

グループ学習編

グループ学習における、自分自身の取り組み方について自己評価をしよう。

評価基準	そのように評価した理由
S グループで協力して学習を進め、主体的に自分の思考を整理したり、深めたりして学ぶことができた。	クラスで交流をしたときに改善点として出たことを
(A) グループで協力して学習を進め、自分の思考を整理して学ぶことができた。	直すために、放課後に残って改善できるよう努力したから。
B 授業中に指示された内容を理解し、精一杯授業に参加することが出来た。	
C 他者と協力して活動することができなかった。	

↑ いずれかに○

発表編

1. プレゼンテーションを通して成長したこと、難しかったことは？

成長点
聞き手が聞きやすいような工夫をすること。

難しかった点
聞き手の興味をひくようなことをすること。

2. プレゼンテーションにおいて最も工夫したこと、意識したことは何ですか？

なるべくゆっくり話すこと。
早口にならないよう気を付けた。

発表後編

クラスメイトや学年内の他のグループの人、そして、3年生や3年生の先生たちからの評価やアドバイスを受けて、どのようなことを学んだか？

。パワーポイントは原稿ではなく、あくまで発表をする上でわかりやすくするものなので、長い文にするのではなく、簡単にまとめた文にすること。
。きん張したらどうしても早口になってしまうけれど、そうすると聞き手も聞きづらいので、ゆっくり話すということ。
。アンケートを取ったなら、そこから得た考察を必要だということ。

取組の振り返り記入例（２）

全体編

◇ どのような場面で、次の力を身に付けたり、発揮したか？

	力を身に付けた・発揮した場面、またその詳細	自己評価
知識取得 (調べる力)	一番初めの調べ学習の段階の時。 疑問に思ったことはすぐに調べてみた。	A
論点整理 (まとめる力)	パワーポイントを作るとき。 簡潔にまとめて、重要な部分のみをまとめて書いた。	B
論理的思考 (考察力)	アンケートを取り、それによる考察の時。 アンケート結果だけでなく、そこからどう考えるかというのを必要なので、よく考えた。	A
プレゼンテーション (表現力)	あまり身に付けられていない。 聞き手の興味をひくような工夫で、必ず原稿通りに話す必要はないことではないので、アドリブで付け加えるなど、これから身に付けようと思う。	C
協調性・協力 (コミュニケーション力)	原稿を考える人、パワーポイントを作る人などのように役割分担をしたとき。 気が利くように、みんな協力して進められた。	B

↑
[S・A・B・C]

◇ 今後、自分自身が身に付けていかなければならない力はどのような力か？

。プレゼンテーション＜表現力＞
人前で話すことが苦手なので、この力をもっと身に付けなければならない。この力を身に付けられると、より聞き手にも伝わる良い発表になると思う。